

しながわ水族館の運営計画に関すること

1. はじめに

- ・令和3年に開館30周年を迎える「しながわ水族館」
- ・将来に向けもっと愛される水族館となるための魅力向上策の検討

令和2年度
「しながわ水族館顧客満足度満点プロジェクト」(通称:「100プロ」)
・・・専門家や区民委員からなる検討委員会による検討(下記参照)

100プロ検討委員会

委員長:中村 元 (水族館プロデューサー)

委員:品川区観光アドバイザー

東京海洋大学教授

大井第一町会連合会

特定非営利活動法人しながわ花海道

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

勝島・浜川・鮫洲地区運河ルネッサンス協議会

一般社団法人しながわ観光協会

100プロ専門家会議

座長:中村 元 (水族館プロデューサー)

参加者:下関市立しものせき水族館「海響館」館長

蒲郡市竹島水族館館長

日本大学国際関係学部教授

PRプロデューサー

文筆家・水族館利用者代表

品川区観光アドバイザー

2. しながわ水族館の現状

①入館者数の推移(図1参照)

- ・開業当初は160万人を超える集客
- ・近年は徐々に入館者数が減少し、コロナ禍前では年間40万人程度

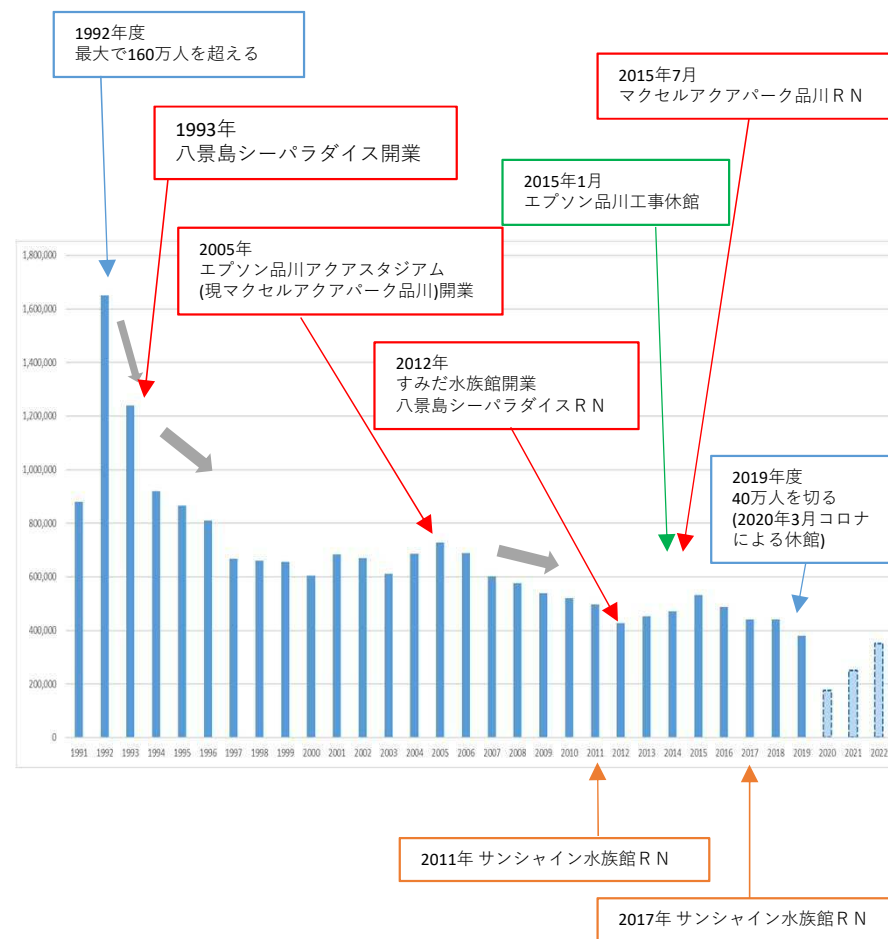


図1 しながわ水族館入館者数の推移

②首都圏競合水族館の台頭（図2、図3参照）

- ・都内他水族館の1/4ほどの入館者数
- ・同一沿線上に4館が新設

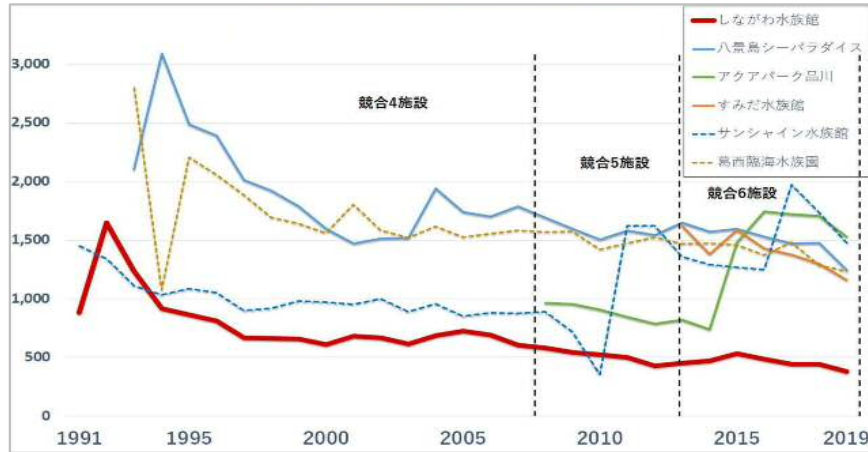


図2 首都圏水族館入館者数推移

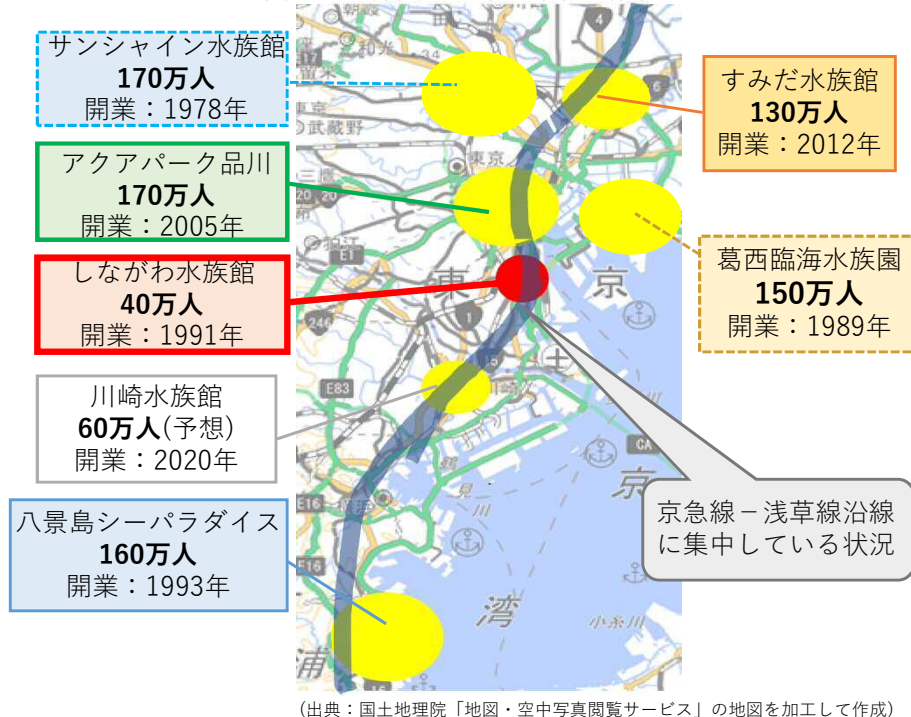
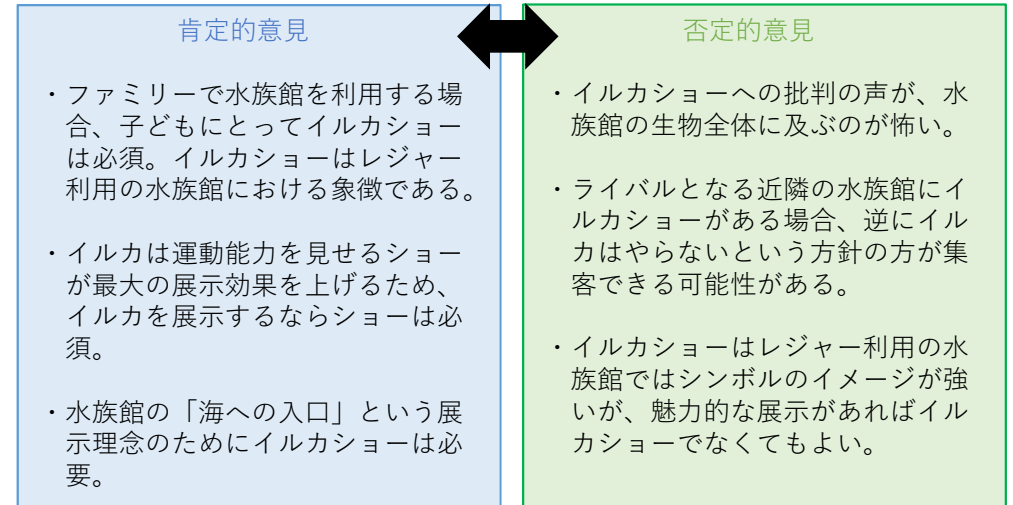


図3 首都圏水族館の立地と現在の入館者数

③イルカショーをとりまく状況

- ・世界では、イルカショーおよび展示への批判が大きく否定的な声が多くみられる。
- ・日本では、イルカなどの鯨類を「水産資源」として扱っており、水族館における展示が禁止されることはしばらくの間ないとみている。
(専門家会議および検討委員会でも肯定・否定双方の意見があった)



・イルカショーを続けるには設備投資などが必要で、公立水族館として長期的に継続するものではない。

・イルカは品川区のイメージキャラクターとして浸透しているため、代わりになるものを考えるのは難しい。

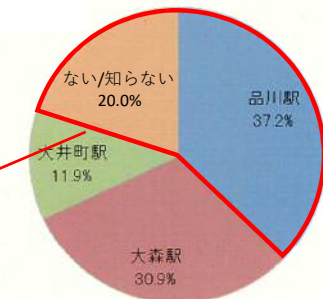
④認知度と存在感の低下

- ・他館の台頭によりイルカショーという中核的競争力が失われつつある
- ・アンケートにより「アクアパーク品川」が「しながわ水族館」と混同されていることが判明（下記参照）

Q.しながわ水族館の最寄り駅はご存じですか？

(しながわ水族館商圏へのWebアンケート n=2,680)

場所を知らないか
アクアパーク品川と勘違い



3. しながわ水族館に望まれる役割（会議でのご意見）

①社会教育施設としての役割

- ・大人の知的好奇心を刺激
- ・区民の教養・趣味・レクリエーションを提供
- ・施設が地域活性化・まちづくりの拠点としての機能を発揮
- ・まちづくりや観光施策等との一体的な取組み

②しながわ水族館に求められるもの

〈専門家会議でのご意見〉

- ・近隣の競合水族館が博物館という概念から逸脱していることに対して、しながわ水族館は区立水族館として大人の知的好奇心、心身の健康といった社会教育性を追求した水族館を目指すべきである。
- ・しながわ水族館は自然豊かな公園の中にあることや周辺にマンションが立ち並んでいることから、エリア全体として活性化させるとよい。
- ・水辺再生型のまちづくり拠点としての役割を担う水族館であるべき。

〈検討委員会の委員への事前ヒアリングからのご意見〉

- ・「区民のための社会教育」・「区民の誇りとなるため」の水族館であれば必要性を理解する。
- ・「水とみどりの基本計画・行動計画」は一向に進んでおらず、しながわ水族館がその推進力に本当になれるのであれば期待する。
- ・しながわ区民公園全体が水族館というイメージになれば、公園そのものの魅力や価値が上がると考える。
- ・大学での専門分野における研究は社会教育に資する内容が多いため、しながわ水族館は社会教育施設として活用できればいいと考える。
- ・他の水族館と横並びではない、独自色を持つ水族館になって競争力を持つことを期待したい。

〈検討委員会でのご意見〉

①水族館によるしながわ区民公園の活用の拡大

- ・区民公園が有効利用されておらずもったいない。水族館によって公園全体が地域活性化の資源になるとよい。
- ・勝島の海の砂浜を利用者や水族館の展示で使えるようにするとよい。
- ・勝島の海に生物を生息させる、釣りやボートをさせるなど、他の水族館ではできないことができるのではないかと考える。

②水族館を中心とした観光施設としての開発

- ・立会川エリア～しながわ区民公園を回遊できるエリアの中心になれるのではないかと考える。
- ・夜の水族館と周辺の競馬場や平和島エリアをつなげた観光ツアーができるのではないかと考える。競馬場は動物、競艇場は水に関係するため、水族館とも相性がよい。

③子どもから大人に至る社会教育施設としての利用

- ・品川の歴史や環境など人文科学的な要素を展示するとよい。
- ・幼児を持つ親、成長した子どものいずれにも水族館の社会教育性は役立つと考える。
- ・かつての東京湾を復元する活動への取組みを期待する。

④東海道の最初の宿場町・漁師町としてのイメージの復活

- ・水路や水は品川の大きな財産であり水族館の意義は大きいと考える。
- ・品川の海の産業や歴史が他の区に取られてしまっているため、それらを取り戻すための水族館であるべき。

4. スケジュール

	令和2年度									令和3年度
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
100プロ 検討委員会					★ 第1回			★ 第2回		
100プロ 専門家会議	★ 第1回	★ 第2回		★ 第3回	★ 第4回		★ 第5回			
	